

山陽クレー工業

(備前市)

探訪

573

ザ・カンパニー

強度や粘着性の向上、つや出し…。工業製品にはしばしば目的に応じた添加剤が入る。

山陽クレー工業(備前市吉永町南方)が生産するクレーもその一つ。地元産の天然鉱物「ろう石」を砕いた白い粉末で、紙や塗料、ゴムなどに混ぜる。「そばでいえば、つなぎの小麦粉。脇役だけれど欠かせない」と瀧本弘治社長(62)。

ろう石は備前、庄原市が国内の主産地。粉砕すると耐火物原料となり明治期以降、地域の発展を支えた。より細かく砕いて紙に混ぜれば破れにくくなり、インクのにじみも防げるため、製紙用の需要も高まった。

同社は1940(昭

メモ

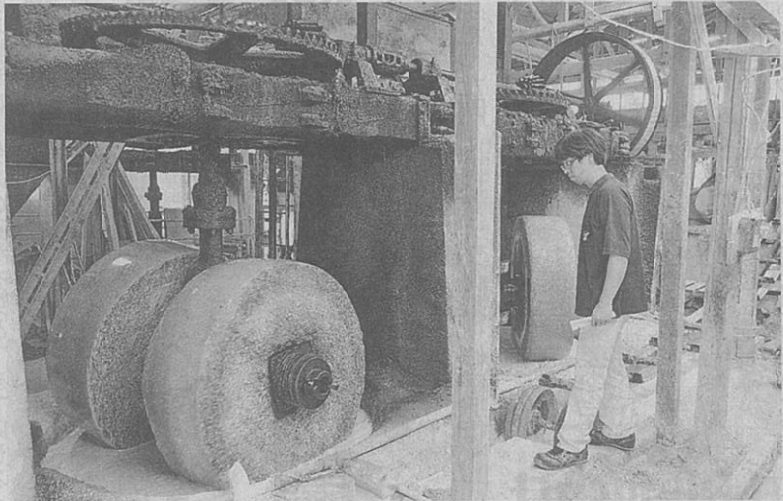
所在地 備前市吉永町南方
(0869)831211 ▽創業 粉砕加工 ▽売上高 2億6千万円(2017年3月期) ▽従業員 12人

和15)年、瀧本社長の粉体(5分以下)を妻の祖父が創業した。回収、乾燥させる。乾式は、ドラム缶のよう

を回して砕き、乳白色 気流で選別する。湿式の粉は細かく均一になり、古くからクレー生産の主流。乾式は粗いが、コストが安い」と瀧本社長。顧客の要望に応じて使い分け、お札や和紙



瀧本弘治社長



石田でろう石を粉砕する湿式法の設備

ろう石粉砕し添加剤に

向けのほか、ペンキの増粘剤、農薬の成分を含ませる基剤などに販路を広げていった。

クレーは最盛期の50年代、備前市一帯で約30社が生産していたが、安価な輸入物に押されて現在は4社のみ。

生き残りをかけ、同社は今年1月、ろう石を別の鉱物と一緒に砕く機械を導入。ゴム製品に混ぜると、ろう石単体より強度が高まるという、大手ゴムメーカーとの安定的な取引につなげた。

こうした取り組みが評価され、今年3月には経済産業省の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選ばれた。瀧本社長は「古いものを残したい一心で頑張ってきた。うちの製品を求めのお客さんがある限り、つくり続ける」と話す。

(森元俊一朗) 随時掲載